

—スタッフ紹介—

役 職	スタッフ名
部長兼脊椎センター長 兼リウマチセンター副センター長	金澤 元宣
部長兼人工関節センター長 兼リウマチセンター副センター長	藪野 互平
医長兼人工関節センター	澤田 典与司
医 長	玉田 将 (6月末退職)
医 員	広白 大介 (3月末退職)
非常勤医員	三浦 泰平 (3月末退職)

—概要—

当院の整形外科部門は大阪大学整形外科(医学系研究科器官制御外科学)教室の卒後研修ネットワーク関連病院の一つとして、指導的立場にある日本整形外科学会認定専門医3名が赴任している。脊椎センター・人工関節センターを併設し、機能再建手術脊椎外科手術/下肢人工関節手術を中心に高度な専門的治療に力を注いでいる。その他、骨・軟部悪性腫瘍など特殊な治療が必要と判断された疾患に対しては、大阪大学関連病院のネットワークを利用し、各疾患に応じた専門治療が可能な医療施設への紹介を行っている。脊椎センターではあらゆる脊椎・脊髄疾患に対応できるよう心掛けている。人工関節センターではナビゲーションシステムを用いたコンピューター支援手術をおこなっており、より正確な人工関節の設置が可能となっている。

現在、金澤元宣整形外科部長(兼脊椎センター長)、藪野互平整形外科部長(兼人工関節センター長)、澤田典与司整形外科医長(兼人工関節副センター長)、を中心に5名の整形外科体制で前記の専門外来を中心に各種整形外科疾患に対応している。また泉州救命救急センター・機能外傷センターとも密に連携し、特に脊髄、脊椎損傷や四肢外傷の手術的治療を積極的に行っている。

2004年度より始まった新研修医制度に従い、初期研修1年目の新研修医に対しては外科系研修の一環として外傷プライマリケアの指導を、初期研修2年目の整形外科専攻を希望する研修医に対しては最大6ヵ月の整形外科専門研修指導を行う。また卒後3年目以降の後期研修医に対しては、大阪大学整形外科後期研修プログラムに則り、整形外科専門医を育成するための研修指導を実践している。また研修医には診断能力や診療技術の習得のみでなく、学会発表や論文投稿などの学術的な面でも整形外科学の発展に将来寄与できるような医師を目指すことを求めている。

外来診療:

平日は地域医療機関よりの紹介を中心に外来診療を午前2診で行っている。2013年1月より予約制を導入し、地域の医療機関を連携し円滑な外来診療をこころがけ、特に脊椎外科および関節外科領域に特化した診療をおこなっている。

手術以外の保存的治療については、火曜午後と金曜午後に義肢装具を要する患者への処方をする目的とする装具外来診を行っている。また長期間にわたる継続的な保存的な治療の必要性が見込まれる慢性疾患に対しては、まず当院で最新の画像診断機器等を用いた原疾患の診断と重症度、進行度を正確に評価し治療方針を決定する。その後、理学療法や、内服処方による通院治療の実践は地域医療ネットワーク(病病連携、病診連携など)を通して適切な地域内各医療施設へ紹介している。

入院診療:

7階海側病棟に計30床の急性期病床を確保している。年間約500件の入院手術を行っている。原則としてリハビリや安静目的のみの保存治療を目的とした入院は病床管理のうえで物理的に不可能であり、外来受診の時点で前述の地域医療ネットワークを通して適切な他の医療機関に紹介している。また術後安定期に入り、さらにリハビリの継続が必要と判断される患者に対しても、一定した質の高い専門的なリハビリができる病院を泉州地域内に確保し連携を密にしている。

近年、患者が理解しやすい十分な説明が可能なおこと、限られた医療資源を効率よく運用するために、入院治療においてはクリニカルパスの重要性が広く認識されるようになった。当科では予定手術の場合、入院から手術、後療法(リハビリ)、退院までほぼ全症例でクリニカルパスを用いて実践している。

今後も周辺地域の病院・診療所と密接な協力関係を保ちつつ、地域基幹病院の整形外科部門として果たすべき役割を永続的に担うことが当科の目標である。

専門診療:

下記4部門を専門分野とし、手術治療に力を入れている。

1) 脊椎外科(担当:金澤)

- ・頸髄症性脊髄症に対する椎弓形成術、前方除圧固定

術など

- ・腰椎変性疾患に対する後方侵入椎体間固定術、開窓術、内視鏡手術
- ・椎間板ヘルニアに対する椎間板摘出術 など
- ・リウマチ、脊椎腫瘍の対する手術、骨粗鬆症性椎体圧壊に対する手術

2) 下肢人工関節(担当:藪野、澤田)

- ・ナビゲーションシステムを用いたコンピューター支援手術による人工関節手術
- ・変形性関節症、リウマチによる股関節症、膝関節症に対する人工関節置換術
- ・人工関節の緩み症例に対する再置換術

など、膝関節・股関節に特化した専門治療を行っている。

3) 関節リウマチの薬物療法と

- ・各種生物学的製剤を含む最新のリウマチに対する薬物治療
(関節形成術、人工肘関節、人工膝関節など)

4) 四肢外傷(骨盤を含む)

- ・救命救急センター・機能外傷センターと連携し診療を行っている。

—実績—

手術統計 (2017.1.1～2017.12.31)

全手術件数:483 件

内訳:

脊椎(117件)

・頸椎:35件

・胸椎:34件

・腰椎:48件

人工関節手術(251件)

・膝関節:151件

・股関節:100件

外傷その他:115件

—今年度の成果と反省点—

脊椎、人工関節領域については専門的な治療を提供できたと考える。今後、外来診療において更に充実させていきたい。

—来年度への抱負—

引き続き、脊椎及び人工関節領域において専門的な治療を継続する。